

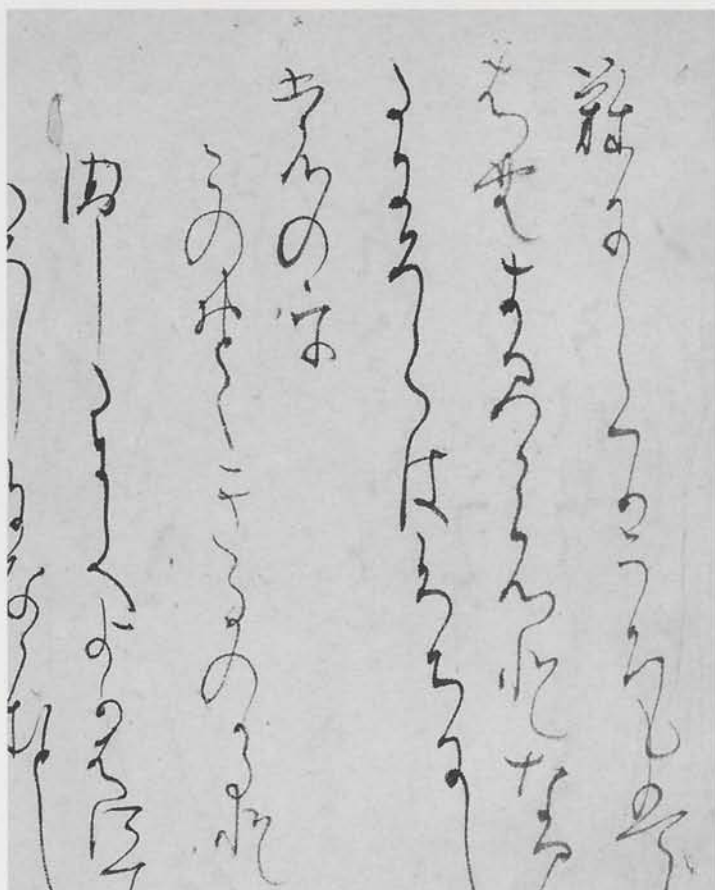
# 書道芸術

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可  
平成十九年一月二十五日  
平成十九年二月一日  
発行 印刷

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第五五〇号



特集：現代の書新春展

550 '07.2

財団法人  
書道芸術院

# 心太平本黄庭経

しんたいへいほんこうていきょう

三五六年（東晋・永和一二年）

木  
雞

金石書画拾遺 (14)

木雞室

伊藤 滋



▲ 趙孟頫・旧蔵本より抜粋

『黄庭経』は王羲之の小楷の第一に挙げられる。巻末に「永和十二年」とあり、王羲之五十歳頃の作とされる。種々の刻本が伝来する。影印本などで一般に見られるものは『水痕本』と称される系統で、十行目に損痕があり、また十六行目末に「無事脩太平」とある。

ここに示した『黄庭経』は、一般に『心太平本』と称せられる。「水痕」も無く十八行目を「無事心太平」に作る。この系統の刻本は非常に少ない。『心太平本』の最も有名な拓は、趙孟頫・旧蔵本がある。ここに示した『心太平本』は、この趙孟頫・旧蔵本と書風、字画がほぼ同じである。

しかし、同一の拓本ではなく、別本である。趙孟頫・旧蔵本は天下の名品とされるものであるが、この『心太平本』と比較すると、字画がやや軽く弱い。この『心太平本』黄庭経は、堂々たる力強さを秘めている。



▶ 図版(左) 趙孟頫・旧蔵本より抜粋

黃庭經

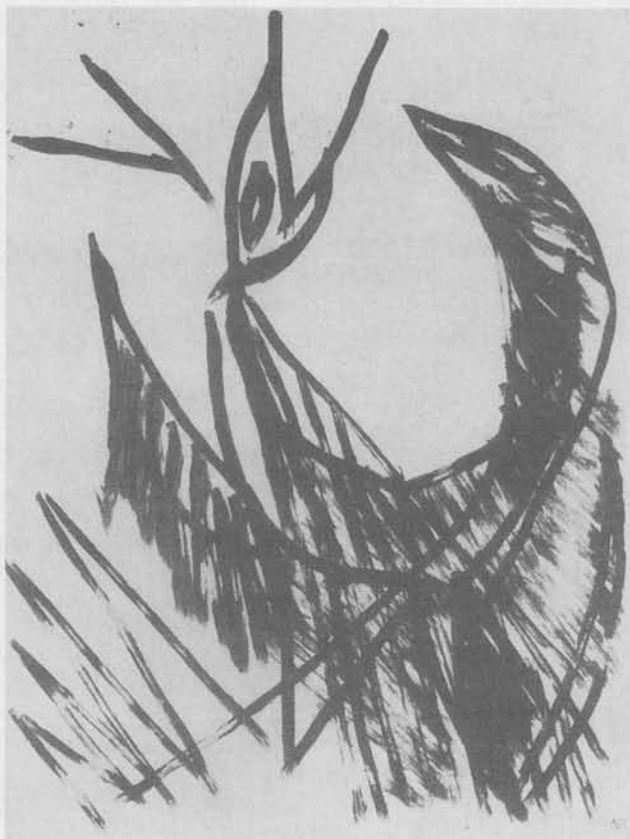
上有黃庭下關元，後有幽關前有命。門嘯及廬外，出入丹田審能行之可長存。黃庭中人衣朱衣，關門壯益。蓋兩扉幽關俠之高魏，丹田之中精氣微。玉池清水上生泥，靈根堅志不衰。中池有士服赤朱，橫下三寸神所居。中外相距重閉之神廬之中，務脩治玄靡氣管受精符。急固子精以自持，宅中有士常衣絳。子能見之可不病，橫



# 書道芸術院 創立発起人 (11)

神話

平成2年第23回現代書展



120×89cm

## 武士桑風 (理想と現実)

「私たちがかかっている大命題「形而上の表現」は、私たちに「人間生存の意味を問う」という神の与えた試練かも知れませんが、私たちは単なる「幻視者」ではなく、その座標軸を「形象」というアウフヘーベン（止揚）された地点においての時代の「顕示者」であります。」（墨スペシヤル10「現代の書」より）

武士桑風現代書作家協会代表の主張の一部である。武士先生は、創立発起人の一人。初期の院前衛書の指導者である。その武士桑風先生を始め、主力の精鋭作家が申し合わせて退会した。院に集まっていた作家には大きな動揺と軋轢（けんりく）を与えた。第20回展後のことであった。退会した人々は、更に分裂していった。そして遂には毎日展も退会した為、院の前衛書活動にも大きな影響を及ぼし、「前衛の芸術院」は奎星会に主導権を譲ることになった。

作家は主義主張のために集まる、主張が合わねば離脱しても咎めることはできない。まして前衛書は革新的で新しい分野であるだけに一人よがりになり易い時代でもあった。わずかに現代書展のみが現在も組織活動をつづけている。

「現代書展は理屈なしに面白く、楽しい。」と生前の青山杉雨先生は拝見されたと聞く。

武士先生は、ダンディーな背広とネクタイで、颯爽として乾盃の音頭をとっておられた。2〜3年前、大病をされて最近パーティーでもお見かけしない。先生今年には94歳になられた。ご健康で長寿をお祈りしている。

（恩地春洋記）

# 書のひろば

理事長 恩地春洋

## 創立から箱根会談まで

### 初期の書道芸術院

創立から、箱根会談までの院史の中で活躍された先人を紹介しながら現在の書道芸術院の骨格が形成される過程を追ってみた。

昭22・11・23 書道芸術院創立、事務所を四谷坂町13番地に置く。

#### 〈発起人〉

伊藤神谷 大沢雅休 大沢竹胎 尾崎竹華  
金田心象 川口芝香 香川峰雲 香川春蘭  
熊谷恒子 桑原江南 鮫島看山 鈴木鐸亭  
菅谷幽峰 田中真洲 高宮金陵 武士桑風  
津金鶴仙 手島右卿 名越霞溪 野本白雲  
長谷川耕南 藤岡保子 藤本竹香 村田龍岱

・「書道芸術院」は立派過ぎるから残しておこうという意見もあり「蒼生会」ではと議論したが、最後は書道芸術院で決定。  
・坂町13は香川邸、寝転んで酒を飲みながら書や書道界を論じたと聞く。

昭23・1 第1回書道芸術院展 都美術館

委員長 野村吉三郎  
副委員長 中村庸一郎

・委員(審査員)発起人以外の主な人  
上田桑鳩 岡部蒼風 弦巻松蔭 森田

子龍 沖六鶴 木村知石 平尾孤往

深沢青蓼 宮川翠雨 国井誠海 竹田

津極山 鶴飼寒鏡 竹村子雀 川崎梅

村 影山盤溪 小川瓦木 川谷横雲

首藤春草 谷脇漢翠 中島邑水 西田

大画 広津雲仙など

・文部大臣賞 池田水城

読売新聞社賞 柳沢大廓

ほか、特選、佳作

・会長 野村吉三郎 副会長 中村庸一郎

総務 上田桑鳩 大沢雅休 沖六鶴

鮫島看山 鈴木翠軒 藤岡保子

理事 安達松石 天野翠琴 鶴飼寒鏡

大沢竹胎 金田心象 川口芝香

香川峰雲 桑原江南 武士桑風

堀 桂琴 松尾英敏 渡辺松軒

昭23・7 書道芸術院推薦展 銀座松坂屋

出品者 比田井抱琴外 74名

昭23・8 書道芸術院移動展 館山市女学校

同 移動展 静岡市田中屋百貨店

・出品者 委員全員と推薦作家の一部 53名

・この年は矢継ぎ早に、書展を開催し、同志の糾合と、組織の整備に務めた。

昭26・8 第1回全国小学生小品競書大会

・戦後、初めての半紙作品の書展

以後、継続 59回

・文部大臣賞 大友恭子 渡辺信子

佐野悦子 梅田清香

郵政大臣賞 桑原洋子 和久井喜美子

馬淵咲子 菅野鶴城

昭27・10 「書道芸術院現代書道展」

ニューヨーク近代美術館

#### 〈出品者〉

浅見喜舟 阿部翠竹 阿部翠屋 池田水城

今井満里 鶴飼寒鏡 宇山博明 大沢雅休

大沢竹胎 沖六鶴 岡部蒼風 香川春蘭

小暮青風 小林龍峰 篠田桃紅 菅谷幽峰

田中真洲 武士桑風 種谷扇舟 十鳥靈石

中村薫風 藤本竹香 平山芳雄 牧野春翠

(以上24名)

・国内展が7月、都美術館で開催され、国電にポスターが貼られ、世間の注目を浴びた。香川峰雲が担当した。

尚、戦後日本書道の海外展は書道芸術院が初めてであった。

昭27・8 書道芸術院関西展 大阪市立美術館

・五回展を経て、力をつけてきた関西の地盤固めのため、川崎梅村が尽力して実施された。審査員は全員大阪に集合した。

昭29・8・31 箱根会談(姥子温泉)

・創立以来書道芸術の発展をめざして華々しく発足した院も、展覧会毎に脱皮したが、問題も生じた。そこで幹部による反省会と今後の改革について協議された。

主な方針

一、書道芸術院は、総合団体であること

二、役員は名譽職ではないこと、論功行賞は明快に

三、少数派を尊重できる機構改革を

以上の方針の具体的なものとして次のことを決定した。

1、科別による審査方法の採用

2、常任理事制をとる。各社中意見が開陳できるように

3、実働役員として形式主義を排した人

#### 事をする

#### 〈集會者〉

香川峰雲 金田心象 武士桑風

種谷扇舟 中島邑水 麻田心斎

・この決定が現在の書道芸術院の骨格となつた、意義深い会談である。

◇昭22(29)までのスナップ

・野村吉三郎とダブリン展

野村吉三郎は初代会長、全国学生競書大会に出品した小学二年生だった林少年が、奨励賞の賞状に野村吉三郎と署名してあったと話してくれた。銀座の新春展を見に来てくれた

林景一さんが一昨年アイルランド大使として赴任されたのが縁で今回のダブリン展が実現した。一枚の賞状が取り持つ縁をありがたいと思う。

・大沢竹胎先生と陣羽織

陳列の指揮をとっていた竹胎先生。時代劇

を見ているような陣羽織と指揮棒、腰に金鎖

を差した大きな体で旧東京美術館を闊歩していた竹胎先生。

・陳列作業が終わった頃、おにぎりとおかず

がでた。おいしかった。都美を出ると上野の

山は、まだ浮浪者が大勢居てこわかった。屋

台で、岡部蒼風先生と伊藤神谷先生が酒を飲

みながら書論をたたくわせていた。私と小島

白洲は黙って聞くともなく酒を飲んでた。

・審査のあとの懇親会は楽しかった。

・香川春蘭先生の本格的なダンス、伊東

快堂先生のお経のような佐渡おけき、浜

田一堂先生の踊り「たにし殿」・村野大仙

先生の一人ダンスなど、三宅素峰先生は

芸達者・倉吉組の「やすき節」など...

## 前衛書 (五)

北村白琉

今まで作品を書くにあたり、線を第一に考え、線と並んで大事な構成が、二の次になっておりました。甲骨文や金文から選んだ文字を基に構想を練り、草稿を作って始めるものの、筆の勢い任せのため、一画書いては、その線を受けて次の構成を考えてまた書くので、百枚書けば百通りの構成となってしまう。構成の覚束無さを、筆の勢いで誤魔化していたような気がします。筆の速度を抑えて書くことを試みていますが、それには、より確かな造形が求められます。

山本先生は、前衛書よりも墨象という名称を好んで使われました。群馬県展の第三部は墨象の部です。私もこの名称が好きで、今後もずっと継承されることを望んでおります。象、即ちすがた、かたちとあれば、一層構成を大事にしなければ、と思うのです。

## 21世紀の書

### —私の主張—

古来より50才は「知天命」の歳と云われますが、父を送り2年後には種谷扇舟先生、三宅素峰先生と相次いで送り、今年を母を送り…と、今日の私を支え続けてくれた両親。書の道を教え導いてくださった二人の偉大な師を失ない、その喪失感、思った以上に大きく、特に三宅先生を失った後は仲々筆が持てませんでした。いろいろな書展の出品は迫るし、こんな事ではダメだ、先生にお叱りを受けるところ、ポーツとながめていた新聞の文芸欄に載っていた、大塚陽子さんの歌が目飛び込んできました。「リラが散

## 現代詩文書 (五)

—出会い・わかれ—

今村菁華

り、アカシアが散り、ようやくに心が我を 取りもどしゆく」まさに、その時の私の心情にピッタリの歌でした。この作品は写真の写りが悪く掲載出来ないのが残念ですが、第一回の社中展の時に、多くの方々に目にとめていただきました。

一周忌が過ぎたある日、先生の墓前に一年間の報告とこれからの行く道を話しかけていた時ははらと雪が降ってきました。雪をみていて心に浮かんだのが掲載の山頭火の句でした。家に帰り、さっそく作品にしてみました。左記の作品は、先生からいただいたムジナの筆で書きました。



平成16年書道芸術院秋季展出品作

北村白琉書



山頭火の句

今村菁華書

〈解説〉

孟法師碑の線は深みがあり、みずみずしく、きめ細やかで、しなやかである。しっとりとした木肌を鋭利な刃物でサククリと切りこんだような味がある。起筆の角度や送筆での筆圧の加減を微妙に変えてあ

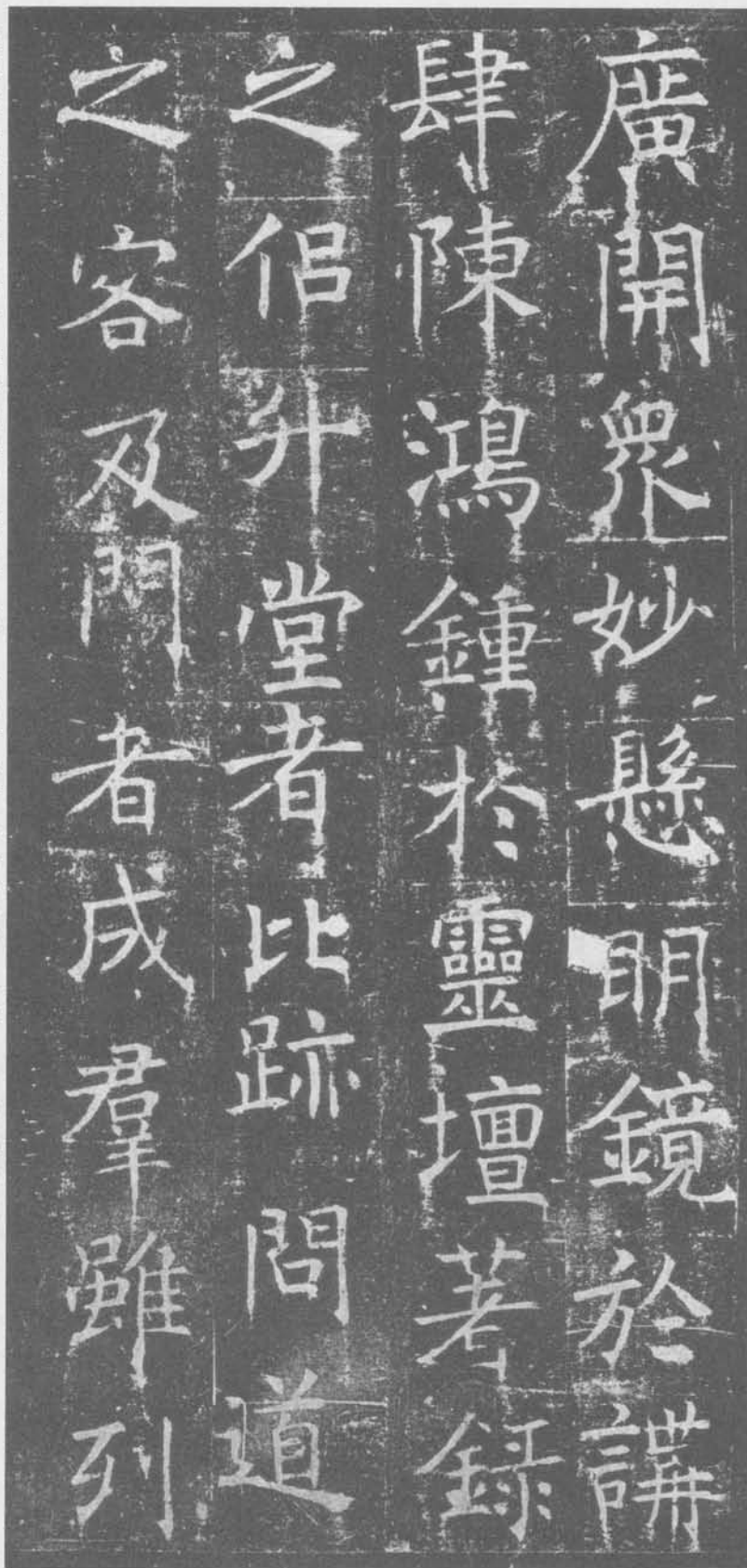
り、技法を極限まで単純化した欧・虞よりはずいぶん複雑な表情をみせている。字形はほぼ正方形にまとめ、重心を低く構えるのが基調になっている。

(編集部)

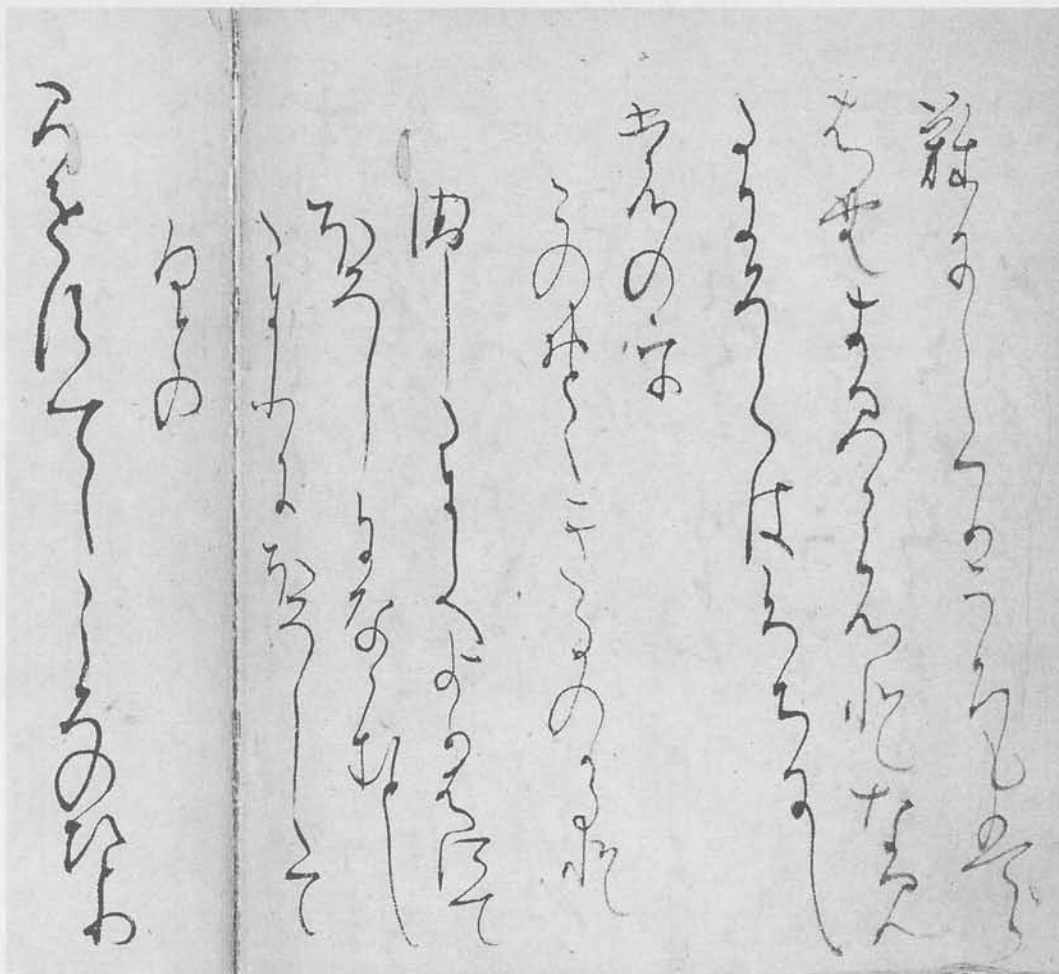
注

漢字研究部競書作品は、左の法帖の中から何文字臨書してもよい。(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは  
○○臨  
(押印のみ可)



廣開衆妙懸明鏡於講肆陳鴻鍾於靈壇著錄之侶升堂者比跡問道之客及門者成羣雖列  
廣開衆妙懸明鏡於講肆陳鴻鍾於靈壇著錄之侶升堂者比跡問道之客及門者成羣雖列



なにくてかうちもはら  
はむきみこふとなみ  
だにそでなくちにし

ものを

このおとど、きたのかたと  
あじたまで、よかはにて  
ほうしにならむとし  
たまふに、ほうしにて

みすて、こころのひとり

(原寸大)

注 かな研究部競書作品は、  
左の古筆の掲載部分より歌一  
首以上を書く。(全臨も可)

※落款を必ず入れる。署名、  
もしくは〇〇臨  
(押印のみも可)

用紙

・半紙普通判(料紙可)  
(たて長に使用)

・半懐紙は、半紙サイズに切っ  
て使用のこと。

・別紙を裁断して貼付は不可。

\*上記掲載写真105%拡大

〈解説〉

筆者は西行と伝わるこの一条撰政集  
は、枳型の楮質の素紙を重ねた大和綴  
写本一帖が、孤本(本文を伝える唯一  
の伝存本のこと)として存在する。

書風は、真筆の「一品経和歌懐紙」  
や仮名消息と類似し、連綿の流れの美  
しい展開だが、同筆とはいえない。

伝西行筆「曾丹集切」とも似ている。  
その運筆は、字形の大小にかかわるこ  
となく、自由に旋回するリズムに乗っ  
て、速度感がある。

線は軽快そのもので、非常に繊細でよ  
く伸びている。

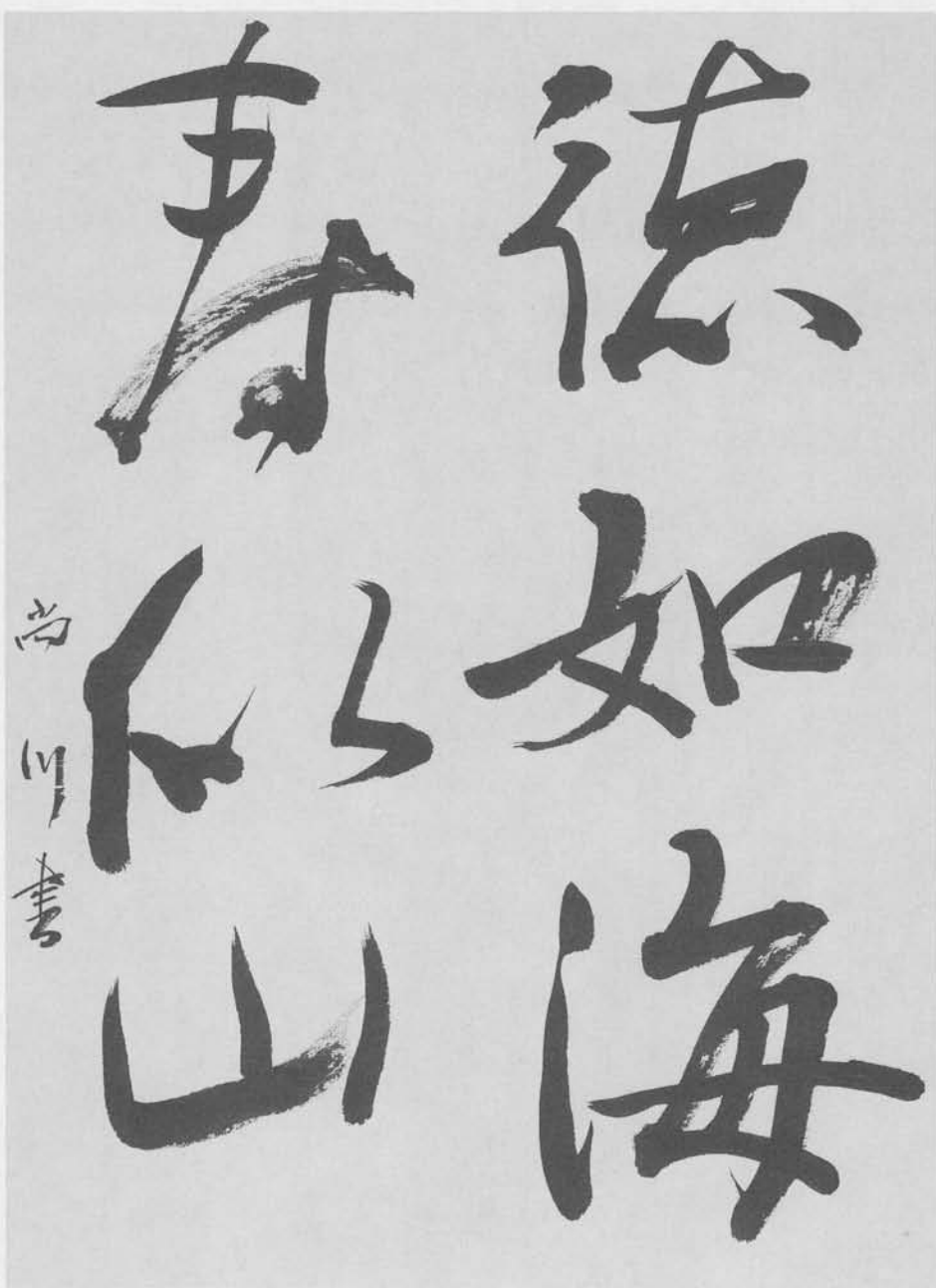
行の流れも、速さに呼吸するかのよう  
に恐ろしいほどの傾きを見せ、うねっ  
ているところがある。

円熟した手による洗練された気品を  
有する名筆といえよう。(編集部)



漢字規定 初段以上 【三月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

浜田尚川 選書



徳如海 寿似山

よみ(徳は海のように、寿は山に似たり)

書体 自由

### 習い方解説 (五)

浜田尚川

徳如海 寿似山

(「んはるのうみはながまにたり」)

徳は海のように広く、寿は山に似て高く長久である。

気脈が一貫して、運筆のリズムが見えることや、強弱をつけて変化を生かす工夫をしてほしい。すっきりし、底にリンとした気品と骨力を持っている集王聖教序。流暢明媚な美しさを表現したかった。

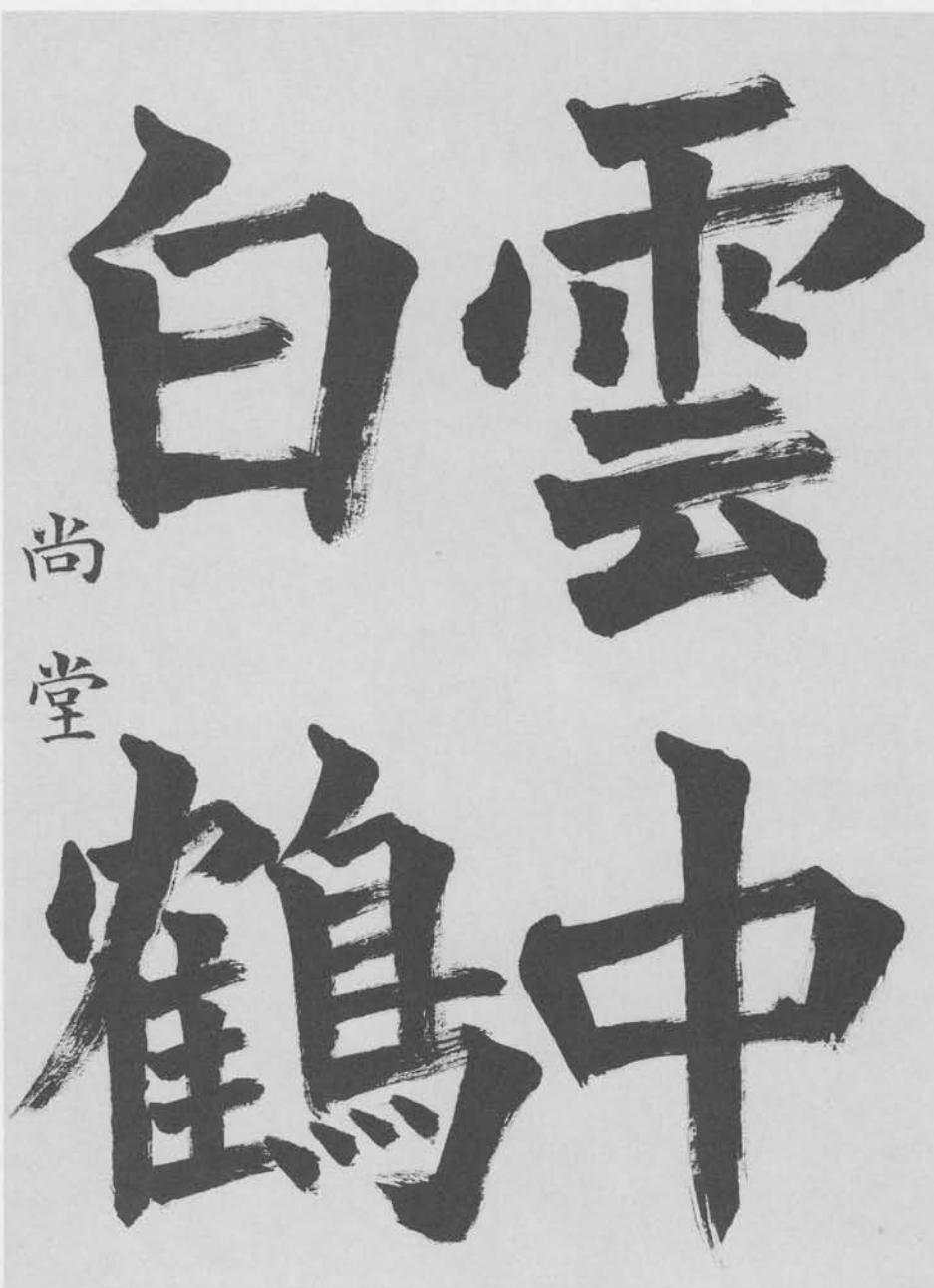
Aは、厚味を出す為に筆圧をかけ、さらに毛がねじれるようにした。深く紙に線が入り浸さも出したい。存分に八面出鋒試みたい。

Aの作品



漢字規定 秀級以下 【三月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

竹田尚堂選書



雲中白鶴

よみ (雲中の白鶴)

書体 楷書

### 習い方解説 (五)

竹田尚堂

雲中白鶴 (魏志・邳原伝注)  
(雲中の白鶴)

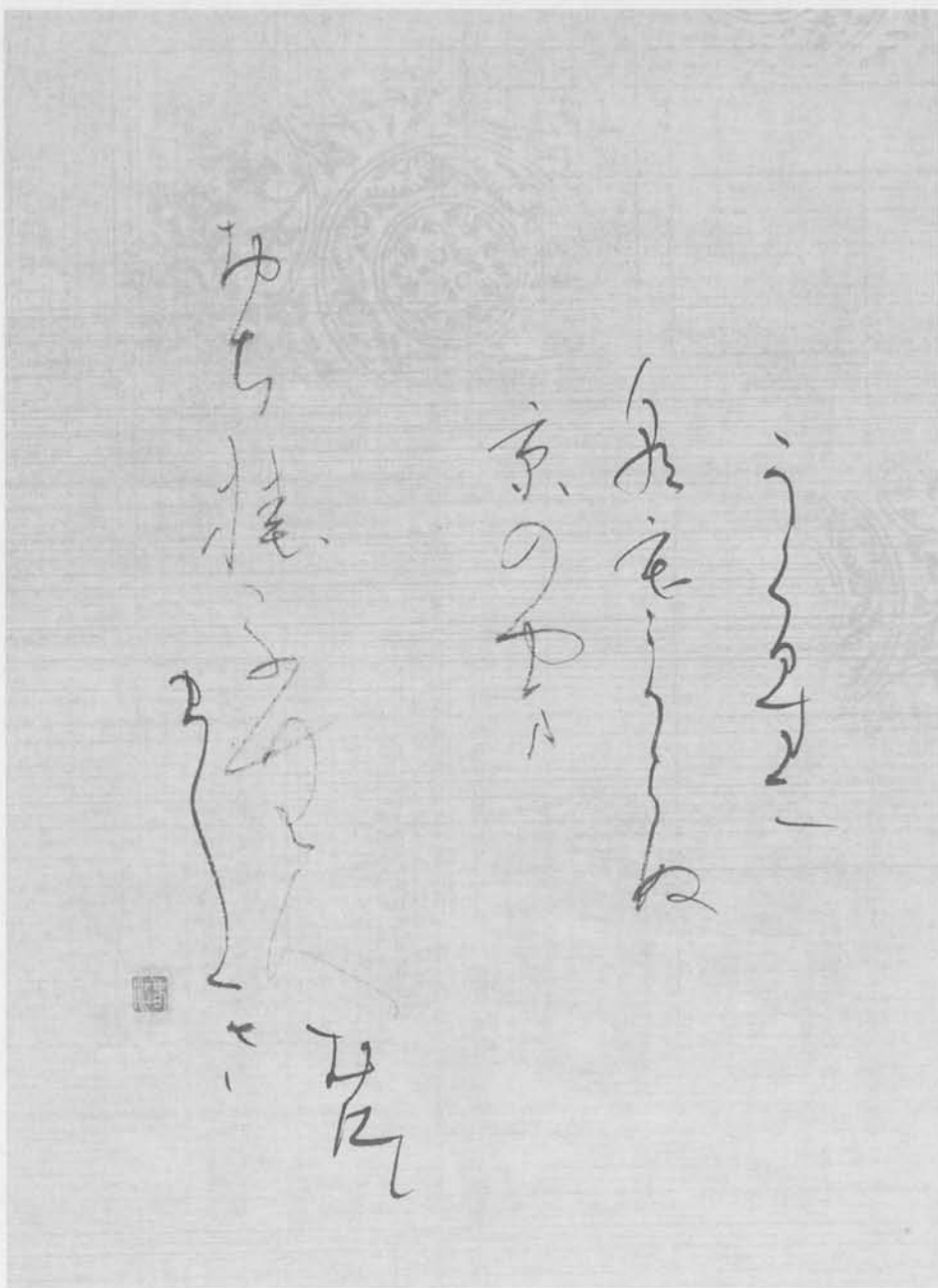
邳原が「空高く雲の中を飛びゆく白い鶴」と譬えられたことに由来し、高尚な人柄をいいます。

北魏書の名品の一つ、張猛龍碑からは意志の強さ、筆勢の激しさが伝わってきます。強い右上りの結体、特徴ある起筆と転折の筆遣い、それから生まれる強靱な線が特色です。強いだけではなく、欧法の先駆を為すといわれるほど清く、高さがあります。

今回の参考は、語意の持つ高潔さと張猛龍碑の高潔な風を念頭に、厳しさの中に高さを多少なりとも得たいと希いました。  
(鶴)は書写体です。

かな規定 初段以上 【三月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

朝倉春江選書



よみ方 うぐ(久)ひ(日)すに(二)朝寒か(可)らぬ京のやま(万)おち椿ふむ(無)人むつ(徒)まじき

創作

### 習い方解説 (五)

朝倉春江

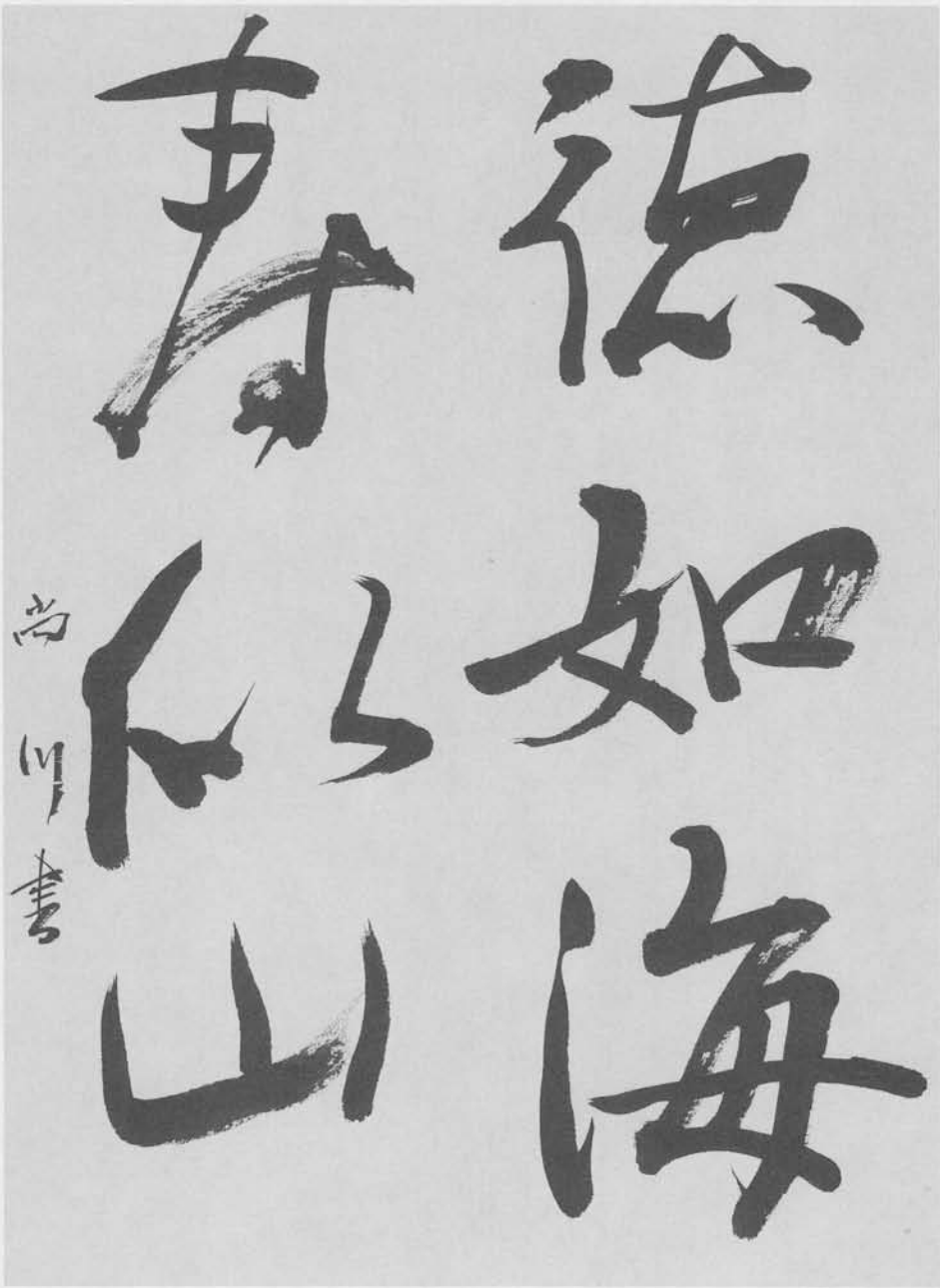
鶯うぐいすに朝寒あさむかからぬ京の山みやまおち椿つばきふむ人ひとむつまじき

(与謝野晶子)

静かな京都の朝、鶯の啼き声を聞きながら、山路を落椿をふみつつむつまじく散策をしている。かなの料紙を使う時は、特に墨の濃度に気をつけて、墨色の変化でリズムを美しく出しましょう。初めは含墨しているので筆遣いが自由にできませんが書き進むにしたがって、墨が枯れて線が細く書きづらくなります。一番の見せ所です。かすれでも急がず、ゆつくりと丁寧に、特に転折での当たりに注意して、穂先をしばりながら整えて運筆をします。

漢字規定 初段以上 【三月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

浜田尚川 選書



徳如海 寿似山

よみ(徳は海の如く寿は山に似たり)

書体 自由

### 習い方解説 (五)

浜田尚川

徳如海寿似山

(いんげんはうみのいんげんはうまににたり)

徳は海のように広く、寿は山に似て高く長久である。

気脈が一貫して、運筆のリズムが見えることや、強弱をつけて変化を生かす工夫をしてほしい。すっきりし、底にリンとした気品と骨力を持っている集王聖教序。流暢明媚な美しさを表現したかった。

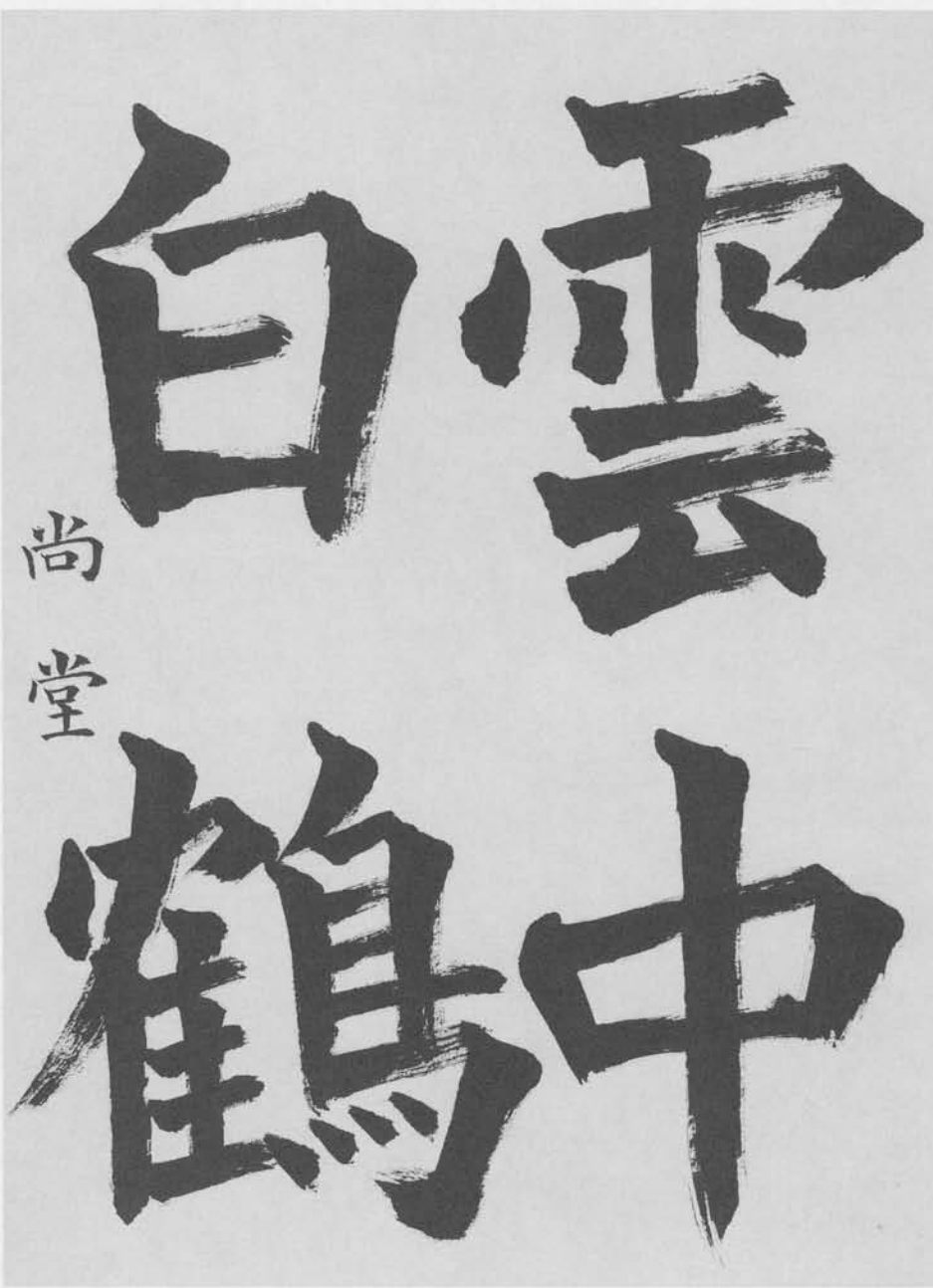
Aは、厚味を出す為に筆圧をかけ、さらに毛がねじれるようにした。深く紙に線が入り渋さも出した。存分に八面出鋒試みたい。

Aの作品



漢字規定 秀級以下 【三月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

竹田尚堂 選書



雲中白鶴

よみ (雲中の白鶴)

書体 楷書

### 習い方解説 (五)

竹田尚堂

雲中白鶴 (魏志・邴原伝注)  
(雲中の白鶴)

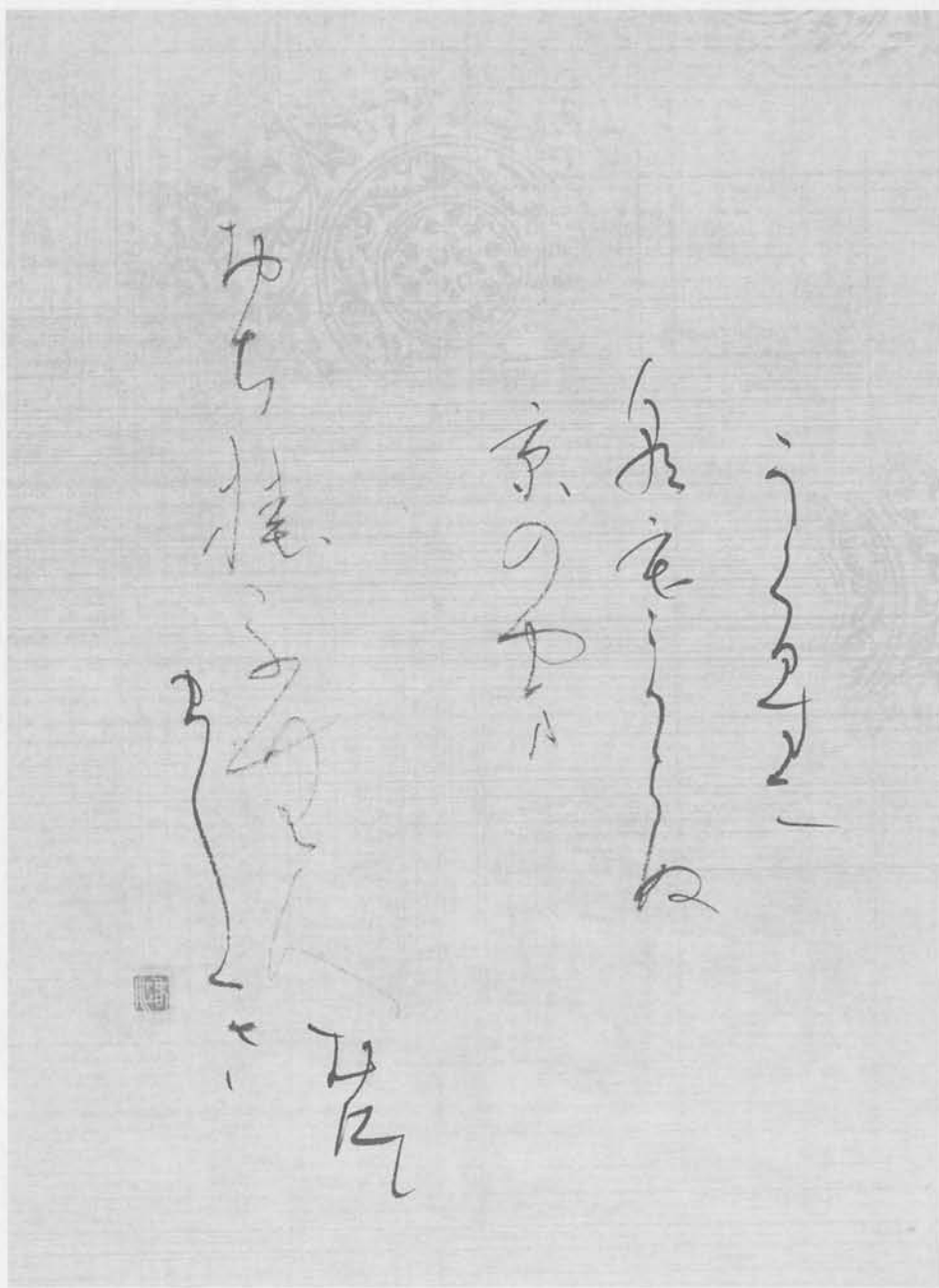
邴原が「空高く雲の中を飛びゆく白い鶴」と譬えられたことに由来し、高尚な人柄をいいます。

北魏書の名品の一つ、張猛龍碑からは意志の強さ、筆勢の激しさが伝わってきます。強い右上りの結体、特徴ある起筆と転折の筆遣い、それから生まれる強靱な線が特色です。強いだけではなく、欧法の先駆を為すといわれるほど清く、高さがあります。

今回の参考は、語意の持つ高潔さと張猛龍碑の高潔な風を念頭に、厳しさの中に高さを多少なりとも得たいと希いました。  
(鶴)は書写体です。

かな規定 初段以上 【三月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

朝倉春江選書



よみ方 うぐ(久)ひ(日)すに(二)朝寒か(可)らぬ京のやま(万)おち椿ふむ(無)人むつ(徒)まじき

創作

### 習い方解説 (五)

朝倉春江

鶯に朝寒からぬ京の山おち椿ふむ人むつまじき

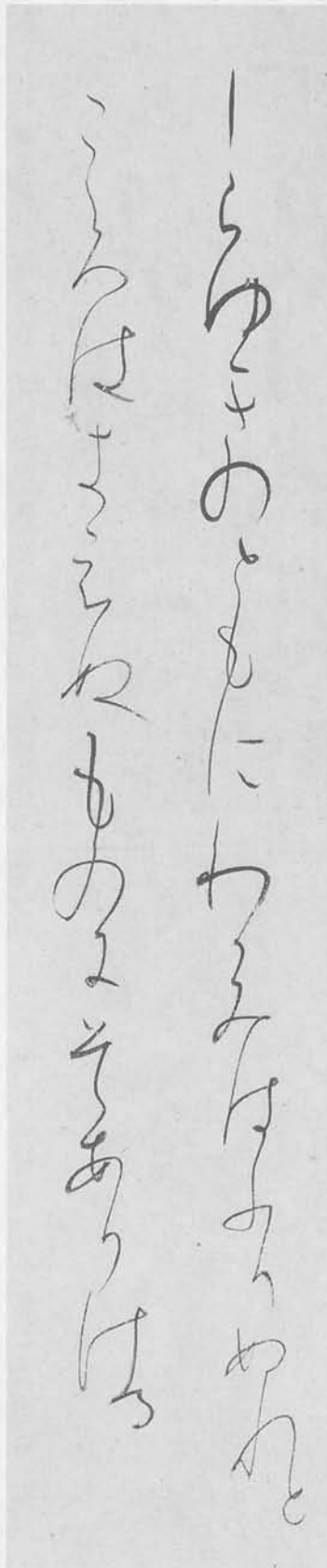
(与謝野晶子)

静かな京都の朝、鶯の啼き声を聞きながら、山路を落椿をふみつつ、むつまじく散策をしている。かなの料紙を使う時は、特に墨の濃度に気をつけて、墨色の变化でリズムを美しく出しましょう。初めは含墨しているので筆遣いが自由にできませんが書き進むにしたがって、墨が枯れて線が細く書きづらくなります。一番の見せ所です。ですから、かすれても急がず、ゆっくりと丁寧に、特に転折での当りに注意して、穂先をしばらくながら整えて運筆をします。

かな規定 秀級以下 【三月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たいて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連続)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)

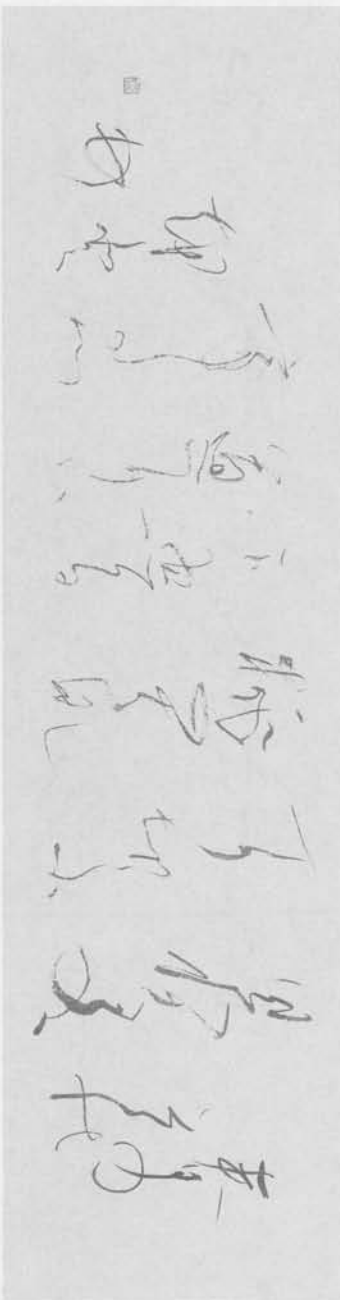


よみ方

しらゆきのとみにわが(可)みはふりぬれど  
ころはき(支)えぬものに(尔)そありける

かな条幅規定 【三月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可)

田村澄子選書



よみ方

春のその(能)く(具)れな(奈)るに(耳)ほ(本)ふ桃のは(者)な(那)  
下照る道に(耳)いで(亭)た(多)つを(越)と(登)め

創作

### 習い方解説 (二)

田村澄子

春の苑紅にほふ桃の花下照る  
道に出で立つをとめ (大伴家持)

和歌の横書は、構成、デフォルメしてから、字形、墨付、行間の響きを考慮して書きたいです。かなと漢字の調和が大切です。感性を生かし離れたところから全体をみるのもよいでしょう。

※よこ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【三月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

西林乘宣 選書



書体||自由

漢皇重色思傾國 御宇多年求不得 楊家有女初長成 (長恨歌一節)

(漢皇色を重んじて傾国を思う 御宇多年求むれども得ず 楊家に女有り初めて長成す)

漢字条幅規定 秀級以下 【三月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

広瀬舟雲 選書



書体||自由

回楽峰前沙似雪 受降城外月如霜 (李益)  
(回楽峰前沙雪に似たり 受降城外月霜の如し)

### 習い方解説 (五)

西林 乘 宣

草書の勉強法といえは、皆さん師匠からいろいろと教わっているでしょうが、私が一番関心があるのは王鐸です。あの字形の千変万化と息の長い連綿は飽きることを知りません。練習するときは単に形を似せるということだけでなく、その筆意、線の妙趣を学びとるよううにしてください。すなわち書の線はその途中が大事、単純にすつと引かないということです。

### 習い方解説 (五)

広瀬 舟 雲

墨を普通の濃さにし、鶏毛筆を用いて、にじみと渴筆の差異を強調し、変化のある線を求めて書いてみました。鶏毛筆の特徴のひとつ、飛白のある、ふわっとした柔らかな線質の中に、凜とした直線を利かせてみました。

回楽峰前の沙漠は雪のように白く、受降城外の月光は、霜のように冴えわたるといふ意味です。



習い方解説 (五)

石井明子

チーチーチーバカマ

チーガリギヌニチーエボシ

ヨーモフーケテソーローニ

カツポンカツポンカツポン

今泉みね 名ごりの夢より 太郎書

用紙はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体は自由

片かなだけで書かれたものは、現代の私たちには読みにくいものですが、上記はその内容の表現にぴったりと感じ、とりあげました。

今泉みねは、代々將軍家の奥医師をつとめた蘭学の名門、桂川家の娘で、明治維新の年に数えて十四歳でした。久々に楽しいリズムに会いました。前三行は左の通りです。

小、小、小袴

小狩衣に小烏帽子

夜も更けて候に

四行目は、お囃子でしょう。

『名ごりの夢』は平凡社「東洋文庫」に収められています。

ある日の朝日新聞、「折々のうた」

に「片仮名は折れやすき文字草雲雀」

(横山悠子) という句を見つけました。

草雲雀は小さな秋の虫で美しく鳴く。

「走馬燈ひらがなといふ優しきもの」

(辻田克巳) と併せて鑑賞すると一切の説明は不要でしょう。

※落款を入れ忘れないようにして下さい。(落款は自分の名前を入れてください。)

ホープ作品  
各部総評

NO. 547

漢字部 師範 足立 万琇

リズム感ある木簡風表現は明快で爽やかである。鶏毛筆使用か、渴筆が変化を醸し出して妙。

◎漢字部総評 上級書体が多様で工夫のあと見られるが練度が不足の感あり。下級繁画の四字表現がやや難しかったか。(大雲評)



かな条幅部 師範 戸来 益江

やや線は細いが、自然な呼吸で銜いなく、参考手本を余裕もって熟す。バランス感覚に秀れた作品。

◎かな条幅部総評 比較的誤字も少なく安定していたが、相変わらず墨汁で墨色の悪いものが目についた。印は丁寧(洋子評)

前衛書部 特選 堀 あつ子

骨格のしっかりとした鋭い線と余白の美しさを引き出している見事な作品であり格調高い。

◎前衛書部総評 余白の美を考え構成された作が多かった。もう一歩力強い線を望む。(洞仙評)



漢字条幅部 師範 山崎 桜江

濃墨でねばりの強い線質の隸書沈潜した線が、熱い想いを発信する。豊かで風格があつてよい。



現代詩文書部 特選 野村 成子

心の中の想いを大きな動きとして表現しています。行のスタートにアクセントがあるのも見事です。

◎現代詩文書部総評 横書きの作品に押す雅号印は、やはり本文の書き方に従いましょう。(蘭華評)



◎漢字条幅部総評 木簡や古隸なども素朴な情熱を伝えるものでありたい。技術の修得過程の人は、じっくりと書き込みを。(春洋評)

かな部 師範 杉浦 菊枝

字粒、墨量とも変化が自然で美しく、安定した字形に支えられた作品は深く、深い魅力を湛えている。

◎かな部総評 上級者は斬新な構成の試みが多く見応えがあつたが、字粒、墨量がかめず、すっきりしないものが目立った。(明子評)



ペン字部 師範 吉村 香苑

丁寧で懐広く豊かな作です。落款に至るまで気力充実して隙がなく、見応えがあります。

◎ペン字部総評 安定した実力のある作品がふえました。漢字とかなの調和、流れの大切さに加え、紙質、ペンにも吟味を。(小扇評)

秋の夕日に照る山紅葉

濃いも薄いも数ある中に  
松を色どる楓や葛は

山のふもとの裾模様

文部省唱歌「紅葉」より 香苑書

特別研究部  
優秀作品(特選)

現代詩文書

(大雲) 池田沙静

「月の沙漠」

◆筆の割れか二本筆か、破筆による紙面の動きが潤渇の変化と連動して爽やかなリズムを醸し出す。「砂」は原本では「沙」同字だが原本を尊重したい。(大雲評)

◆思わず口ずさむような楽しさを感じる作品です。墨色のにじみを適所に表現しているのが紙面にリズムを与えてくれている効果があります。(倫子評)

◆坦々と青墨の潤渇で書き進めた心情を理解する。静かな雰囲気がいかが構成上はもう一工夫あってもよい。最後は軽く収めたい。(春洋評)

◆破筆でも比較的抑えた表現で、独特のリズムが魅力。後半二行と落款の入れ方にも足りなさを感じるが、軽妙な線をさらに磨いてほしい。(洋子評)

池田沙静書



漢字

(墨宣) 鏑木梅道

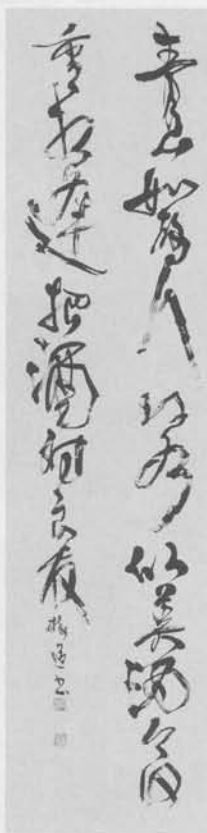
「渡江」

◆大胆な連筆の連綿で気力充実している処がよい。技にまかせて一気に終りまで走ったという感じがしないでもない。次へ一つ調子を破りたい。(春洋評)

◆書くのが速いのか表現された線質に変化が乏しいのが残念。一行目の下部の方に美しい流れが表われているので呼吸の緩急を考えてください。(倫子評)

◆見応えのある二行書。骨気のある動きで奔放に筆を操り、リズムを押し開くように畳み掛けていく。かすがが少々荒くなったのは残念。(洋子評)

◆漢字行草二行書として潤渇の変化もバランスよくまとまっている。渴筆部にやや荒さを感じるのは二層紙と筆墨の相性に難があるのか。(大雲評)



鏑木梅道書

総評

今月は79点(漢19、か10、現28、前21、篆1)の応募がありました。審査は恩地、香川、辻元、下谷先生の協議で特選5点を選考しました。

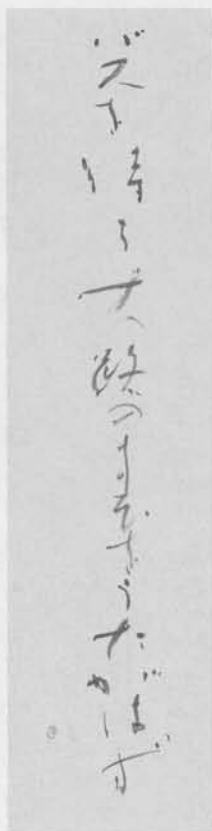
特選に選ばれた作品は、いずれも技術的に熟達した質の高い作品でした。安定感と品格があり、じっくりと鑑賞するに足る完成度がありました。

特選候補に名を掲げた方々の作品の中には、発想や企画の上では、特選作品を凌ぐ作も見られました。もう少し完成度が高く、質が良ければと思える作も数点見られました。可能性に富み、次作が期待出来る作品に接し、楽しく審査会が行なわれました。

(萬城)

〈特選候補者〉

漢	もく	西川	藤象	現	翠吟	鈴木	承琳
漢	うる	小野寺	津源	現	大雲	長島	僊雨
漢	うる	蜜波羅	鳳雲	前	大拙	龜山	彩雅
か	蓮紅	千葉	華紅	前	大拙	大庭	幸石
現	大雲	阿部	恵泉	前	杏苑	松永	杏苑
現	千葉	大内	熒軒	前	大拙	荒木	孫功
現	水壑	伊澤	香雨	前	東実	尾形	澄神



佐藤希雲書

かな

(大雲) 佐藤希雲

「波郷の句」

◆濁点を入れ、読みやすさを重視したかな書。現代詩文書との境目が難しいが、デフォルメに無理がなく気脈のリズムも貫通して逸格の品位。(洋子評)

◆従来のかなの手法とは異ったまとめ方がおもしろい。穏やかなまとめ方、現詩の構成研究と、かなの伝統書が合体して新しい書風の萌芽に。(春洋評)

◆俳句一行書きは左右の余白の関連が難しい。懐の広い字を適度に配し広がりを感じさせるのはさすが。鋭い刃えある線と運筆のリズムを。(大雲評)

◆線の流れにさからわず自然に墨色に変化が出て句のリズムにさからわず自然に表現されている。印の位置を本文にもう少し近づけて見ては。(倫子評)

現代詩文書

(蒼原) 熊谷青山

「春を待つ」

◆バランスよく上下に構成したのは、計算されたのでしょうか。紙面を小さくしたように見えます。上部の塊りを少し考えて見てください。(倫子評)

◆上部の二つのブロックの構成は自然で線の変化もある。下半や込みすぎて落ち着かない。思い切った余白の生かし方も工夫してみてください。(大雲評)

◆書き始めの、しっとりとした柔らかな表情に思わず引き込まれたが、後半になって調子が単一になったのが惜しい。上下の構成に一工夫を。(洋子評)

◆上部は自然で行間を生かして豊かさがある。下部は集団としての構成で密度がある。上下別々のねらいでまとめた方がよくないだろうか。(春洋評)



熊谷青山書



米倉聲香書

前衛書

(声香) 米倉聲香

「雨音」

◆書き出しの部分で左の集団が、がっしりと受けとめて明るい。右は構成上やや弱いかもしれない。左端の造形と濁筆が主役。(春洋評)

◆やや静かな書き出しから左方へダイナミックに展開する。横形式を生かした表現である。紙質と墨が合わない感あり。更に研鑽を。(大雲評)

◆かすれを上手に生かして左部に持って行き墨だまりを中心にと考えて構成されているのがまとまりをよくしている。筆の活躍的な動きよい。(倫子評)

◆構成は自然に発したものかもしれないが、実に巧妙に変化をとげている。濁筆の筆の回転が見せ場となった雄壮な作品。墨色が気になるが。(洋子評)

漢字研究部  
(孔子廟堂碑)

選評 村野大仙

今月のホープ作品

孝治要道

洋子臨

茅野洋子

◎漢字研究部総評

「書は手本を見て学ぶ」と、これ常識かな。だから手本の善し悪しが学書に直接響きます。

漢字研究部 特選 茅野 洋子  
何よりの魅力は伸びやかな姿態と骨格のしっかりした温かな筆線です。外柔内剛の味を持つと言われる原本の雰囲気如実に表現されているたのもしい作品です。ただ落款が細すぎて調和を破っているのが残念です。

その最もよい手本が古典です。そして古典そのものを見て習う事が大切な条件です。他人の臨書したもので学ぶと本物とは違う条件が加味されたものを見て学ぶ事になります。先生に導いてもらう事も欠かせない大切な事です。すが原本を見ずに先生の手本だけで習う事は勧め出来ません。見方や考え方など教えてもらい直接原本で学ぶべし。疑問や難しい事があつたら先生に尋ねるといいでしょう。

六辯黃奉  
上玄肅恭  
清廟宵

六辯黃  
奉  
上玄

六辯黃奉  
肅恭清廟宵  
具食視膳之禮  
無方一日萬機

六辯黃  
奉  
上

黃奉  
清廟宵  
具食視膳之禮  
無方一日萬機

六辯  
黃奉

黃奉  
上玄

黃奉  
上玄  
肅恭清廟  
衣具視膳之禮  
無方萬弼萬孝  
治要道於斯為大  
能使平天成風淳

孝治要  
道於斯

肅恭  
清廟

六辯黃  
奉  
上玄

誠弼萬孝治要  
道於斯為大故  
能使地平天成  
風淳俗厚

肅恭  
清廟

六辯  
黃奉

問安之誠弼  
萬孝治要道  
於斯為大

具食視  
膳之禮

肅恭  
清廟

地平天  
成風淳

孝治要道於  
斯為大故能  
使地平天成  
風淳俗厚

六辯黃奉  
肅恭清廟  
衣具食視膳  
之禮無方一  
日萬機問安  
之誠弼萬孝  
治要道於斯  
為大故能

視膳之  
禮無方

使地平  
天成風

六辯黃奉  
肅恭清廟  
衣具食視膳  
之禮無方一  
日萬機問安  
之誠弼萬孝  
治要道於斯  
為大故能

六辯  
黃奉

幸玉惠聲翠皓  
惠華子香徑泉

山喜彩彩正爽  
美房炎雨江陽

箕佳良惠蕙青  
城子子泉月山

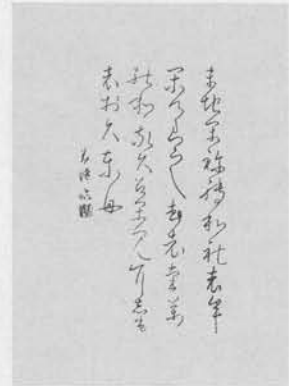
春郁幸ノ滄岳  
燈子子リ晨峰

かな研究部

(秋萩帖)

選評 山藤 美知子

今月のホープ作品



星野 美佐枝

草がなの七字連綿をうまく表現して、大らかで自由で楽しい作となりました。草がなの連筆のリズムもよくとらえて秀作です。用紙一考を。
◎かな研究部総評
誤字もなく草がなに大分手なれてこられたようでよい作が多く見られました。手本をよく見て一行毎の墨量に注意してください。

かな研究部成績発表

Table with columns for author names (e.g., 正野美枝, 星野美佐枝) and their corresponding kanji characters (e.g., 正, 野, 美, 枝).

かな研究部 特選 星野美佐枝

# 第60回記念 書道芸術院展

会 場： 上野公園 東京都 美術館

会 期： 平成19年 2月 7日(水)～12日(月)

## 〈作品鑑賞会〉

日時： 2月11日(日) 午前10時30分～正午

会場： 東京都美術館 展覧会場 (第1室)

※参加される方は午前10時20分までにご集合ください。

## 〈表彰式〉

日時： 2月11日(日) 午後3時～午後4時

会場： 帝国ホテル 孔雀の間

## 〈祝賀懇親会〉

日時： 2月11日(日) 午後5時～午後7時

会場： 帝国ホテル 孔雀の間

# 松延会書展

会 期： 平成19年 3月 1日(木)  
～ 3月 5日(月)  
12:00～17:30

会 場： リベストギャラリー 創

後 援： (財)書道芸術院  
(財)毎日書道会

事務局： 東京都武蔵野市吉祥寺  
東町 3-22-12  
☎0422-22-2251  
高橋 松延

# 第12回 さきたま書人展

会 期： 平成19年 3月 1日(木)  
～ 3月 6日(火)  
10:00～18:00  
(初日13:00より)

会 場： 大宮ソニック  
オープンギャラリー31階  
JR大宮駅西口徒歩5分

書道芸術院北関東総局・さきたま書人会  
事務局： 埼玉県さいたま市見沼区  
御蔵797-1 菊池方  
☎048-685-5405

2007年

毎日書道展

新会員作家展

会期 3月5日(月)～3月31日(日)

会場 II アートサロン 毎日

(毎日新聞社東京本社1階)

主催 II 毎日新聞社・(財)毎日書道会

☆第1期 (3月5日(月)～10日(土))

漢字部 岩垣若翠

大字書部 三谷嶺雲

前衛書部 千葉華紅 矢野弥生

☆第2期 (3月12日(月)～17日(土))

かな部 勝山初美

前衛書部 小野里和子

☆第3期 (3月19日(月)～24日(土))

漢字部 東原扇桜

近代詩文書部 中山田桂風

前衛書部 千葉紅雪

☆第4期 (3月26日(月)～31日(土))

かな部 松村くに子

近代詩文書部 鈴木智翠

前衛書部 中瀬美智子

競書出品規定

●締切日 3月20日  
●規定部

部門	字	漢	な	か	漢字条幅	かな条幅	ペン字
段級位 用紙	初段以上 半紙	秀級以下 半紙	初段以上 半紙	秀級以下 半紙	初段以上 半紙	10師 級	10師 級
書体・内容	創 (書体自由) 作	創作(楷書)	創作	臨 書 (写真掲載部 分を全て書く) 書	創 (書体自由) 作	創 (書体自由) 作	書体自由

●前衛書部 審査委員は  
現代詩文書部 出品不可  
半紙紙使用に限る、一人一点  
(両部門に出品できる)

●研究部(審査委員は出品不可)

部門	漢字研究	かな研究
出品資格	審査委員 候補以下 (審査委員 は不可)	審査委員 候補以下 (審査委員 は不可)
用紙	半紙	半紙
書体・内容	掲載の古典 の臨書、文字 数自由(掲載 部分以外の 箇所は不可)	掲載の古筆 の臨書、歌 一首以上を 書く、全文 も可(掲載部 分以外の箇 所は不可)

●特別研究部(審査委員も出品可)

特別研究作品	出品資格	用紙	内容
誰でも 出品可 (審査委員 を含む)	小画仙 半切・ また 70×70 センチ 以内、 縦横自 由	漢字・かな・ 現代詩・篆 刻・前衛書 の各部門を 含んだ創作 作品(競書 ・篆刻は印 影に落款を 入れて応募 ※各部を通 じて一人 一点。 刻字は不可	

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

- 一、締切日必着厳守
  - 二、月別出品券を貼付していないバーコード券は認めない
  - 三、月別出品券のコピーは不可
  - 四、(一)初めて出品のときは「新」
  - (二)回目出品のときは「10」
  - (三)〇印は昇級
  - (一)級上の級を書く
  - (四)「締切後着」・「段級不明」・「課題違反」・「落款なし」の作品は審査対象外とし、氏名を掲載しません。
- ※▲印段級誤記入

バーコード出品券についてお願い  
\*作品からはがれないように、右下にしっかり貼り付けてください。  
\*月別出品券の部別を間違えないように貼ってください。  
(※スティックのりははがれやすいので、ヤマトのりをご使用ください。)  
\*記入する数字は、  
級位は算用数字1、2、3……  
段位は漢数字 初、二、三……  
で書いてください。  
\*級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区  
東神田一―一六―七  
神田芝崎ビル三階

財団法人書道芸術院

電話(〇三)三八六二―一九五四  
FAX(〇三)三八六二―一九五七

お問い合わせ、ご連絡は、  
月曜日～金曜日九時～十七時の間に  
お願いします。(土・日・祝日は休み)

送料

- 一か月の購読部数が  
1部～9部までの一回の郵送料
- |    |      |
|----|------|
| 1部 | 68円  |
| 2部 | 84円  |
| 3部 | 92円  |
| 4部 | 100円 |
| 5部 | 116円 |
| 6部 | 124円 |
| 7部 | 140円 |
| 8部 | 148円 |
| 9部 | 156円 |
- 10部以上は  
送料免除

平成十九年 一月二十五日印刷  
平成十九年 二月 一日発行

定価 一部 六五〇円

編集兼 恩 地 春 洋  
発行人

データ処理 株式会社 リンクス  
印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 (財)書道芸術院

東京都千代田区東神田一―一六―七  
101-0031 神田芝崎ビル三階  
電話(〇三)三八六二―一九五四  
FAX(〇三)三八六二―一九五七  
振替 〇〇一五〇四―三三〇五八  
http://www.linco.co.jp/shoged/